

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	アジアゾウと飼育者との異種間相互行為分析に向けての予備観察
氏名 Name	築地夏海
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	理学研究科生物科学専攻 博士後期課程 1 年
渡航国 Country	タイ
渡航日程 Travel schedule	2025 年 3 月 28 日 ～ 2025 年 6 月 22 日

- ・ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- ・写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- ・各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- ・日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

本渡航の目的は、博士研究（仮題：「ゾウとヒトの相互行為分析による異種間関係形成メカニズム」）の調査地下見としてタイ北部のチェンライにある Golden Triangle Asian Elephant Foundation への滞在、および本調査の内容に即した予備観察を行うことである。

ヒトとヒト以外の動物との間における発話・行動などの行為のやり取り（＝相互行為）に関する研究は、チンパンジーのような進化系統の近い霊長類を対象として行われてきた。しかし、認知能力や社会性の高さが示されているゾウもまた、ヒトとの関係の歴史が長いことから、相互行為がどのように行われているかの解明が期待される動物である。タイやラオスを含む東南アジアでは、社会の需要や国家政策などに応じて、林業や観光業、保全活動など、飼育ゾウの役割や扱われ方が変化してきた。しかし現状のゾウとヒトとの具体的な関係形成のメカニズムに関する先行研究は、実験課題による限定的な分析、ないし質問紙調査・聞き取り調査による経験のみに基づいた考察であり、実際の連続的な行為のやり取りに基づいた包括的な議論には至っていない。

ゾウとヒトとが互いをどう相互に理解しているのかを解明するためには、同種間、および異種間での組み合わせでどのような行為のやり取りが見られるのかをまず明確にする必要がある。そこで本渡航では、2025 年度に実施予定の長期調査に向けた土台作りとして、①ゾウ同士、②ゾウとゾウ使いの異種間、③飼育者であるゾウ使い同士といった 3 種類の相互行為データを予備的に収集して、ゾウ・ヒトそれぞれが同種間・異種間で行う相互行為の観察手法を確立させることを目指した。

成果 Outcome

「渡航計画の概要」で挙げた 3 種類の行動データのうち、特に①②の観察を行うことができた（写真 1）。調査地ではゾウ 1 頭につき 1 人のゾウ使いがおり、日中のゾウの面倒を見守っている。そこで、ゾウとそのゾウ使いのペアを毎日無作為に選び、ゾウおよびゾウ使いに同行する形で各日 3 時間程度の個体追跡を行った。調査地には飼育ゾウが 17 頭おり、本調査ではそのうち 7 頭を観察対象とした。

観察中のゾウ使いからゾウへの発話や行動としては、指示出しとしての声かけのほか、指示を聞かない場合にゾウに向かって手を振りかざす・ゾウを触るなどの動作も多く観察された。また、ゾウが動作主となってゾウ使いへの相互行為を試みる場面も何度か観察することができた。帰国後は、ゾウ同士、

およびゾウとゾウ使いとで見られた具体的な相互行為の内容を抽出して、本調査で収集するデータを決定していく予定である。

③に関する観察手法の確立は今後の課題ではあるが、本渡航では調査中にゾウ使いと話す機会が多くあり、ゾウ使い同士の相互行為データの収集に不可欠となる調査者とゾウ使いの関係構築に努めることができた（写真2）。ゾウ使いの使用するタイ語の修得にも引き続き励みつつ、信頼関係を構築しながら調査を続けていきたい。



写真1．調査施設内の草地での観察



写真2．調査中にゾウ使い達と話す調査者（左から2番目）

今後の展望 Prospects for the future

本渡航では調査地の情報収集・予備観察に加えて、チェンマイ大学獣医学部を訪問してタイ人研究者と研究相談をする機会もあり、新たな学術的コネクションを得ることもできた。帰国後は、今回の予備観察を踏まえてより長期での調査を計画するとともに、本渡航で培ったコネクションを生かして次回の調査渡航に必要な研究ビザを取得する。本調査では、相互行為のデータをより多く集めることでゾウとヒトとの相互行為分析を実施し、異種間でどのように互いを理解しあうのかの仕組みを明らかにしたい。

末筆ながら、渡航直前まで丁寧にサポートいただいた大学院教育支援機構の皆様に感謝申し上げます。ご支援のおかげで充実した滞在ができたことを忘れず、より一層研究に邁進してまいります。